

# 第4学年3組 道徳科学習指導案

平成30年12月11日(水) 第5校時

在籍 男子14名 女子16名 計30名

授業者 菅野 智也

1 主題 みんな違ってみんないい 内容項目【A-4 個性の伸長】

2 本時のねらい お互いの個性をいかしながら嵐を乗り越えた4人の兄弟の心情を通して、自分のよさに気づき、よさを伸ばしていこうとする態度を育てる。

教材名 うめのき村の四人兄弟(出典「新しい道徳」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校3年生及び4年生の指導の観点は、「自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと」である。この内容項目である「個性の伸長」は、低学年「自分の特徴に気付くこと。」によって育てられている。更に高学年では、「自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。」、中学校では「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。」に発展していく。

自分の特徴である長所の部分に焦点を当て、さらにそれを伸ばしていき、自分の個性に気づくようにすることが求められる。そのためには、児童が視野を広げ、他の人々の多様な個性に触れ、憧れや希望を抱ける多様な場面や機会をいかしていけるようにする。指導に当たっては、友達など他者との交流の中で互いに認め合い、自分の長所に気づくことのできる場を設定し、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、自分から挨拶をすることができ、大人と話す時に丁寧な言葉で話すことができる児童が多い。みんなで話し合っ決めて学級会やグループで役割を決めて活動する体育など自分達が主体となることができる活動が好きな児童が多い。しかし、友達といると楽しくなってしまう、落ち着いて行動することやルールを守って行動することが難しい児童がいる。9月に全校で行った「よいところハート」の活動では、とまどいながらも自分の力で書くことができた。また友達のよいところを書く活動では、友達のよいところをどんどん書いていた。その後に実施した10月の「心の瞳アンケート」では、次のような結果であった。

○「心の瞳アンケート」(一部抜粋)

・得意なことや好きなことがありますか。	ある	100%	ない	0%	わからない	0%
・自慢できるようなことがありますか。	ある	50%	ない	0%	わからない	50%
・自分にはいいところがありますか。	ある	70%	ない	17%	わからない	13%
・自分のことが好きですか。	好き	50%	ない	23%	わからない	27%
・自分についてよくなりたと思うところがありますか。	ある	70%	ない	7%	わからない	23%

友達のよいところは見つかっても、自分のよいところとなると見つけられない児童が多いことがわかった。得意なことや好きなことがある児童が多いが、自分のよいところに気付いたり、もっと伸ばしてい

きたいという気持ちを持ったりするところまでつながっていない実態が見えた。本時では、うめのき村の四人の兄弟がそれぞれの個性を生かす場面を通して、人それぞれによいところがあり、自分のよいところにも気付かせたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、「うめのき村の四人兄弟」は、4人それぞれが持つ特徴を生かして村にくる大嵐に備えて力を合わせるというお話である。本時では、うめのき村の四人の子供が持つ特徴が、村に嵐が来たときにうまく生かされる場面に焦点を当て、自分のよいところがわかり、よりよくしようとする態度を育てたい。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

#### ① 4人兄弟が自分の得意なことをいかして嵐を乗り越える場面

ここでは、一人一人が嵐を乗り越えようとする時の思いに共感させる。また、一人一人に得意なことがあり、いかすことのよさを感じさせる。

#### ② 嵐を乗り越え、おとうにほめられる場面

ここでは、一人一人のよさをいかして嵐を乗り越えたことが、4人の満足感、自信につながったことととらえさせる。

## 4 研究主題との関わり

研究主題

自己肯定感を高める道徳教育 ～授業づくりを通して～

### 【仮説】

教材文を自分事としてとらえ価値について考えることができれば、自分の良さを認め伸ばしていこうという心情が生まれ、自己肯定感を高めることができるだろう。

### 【手立て】

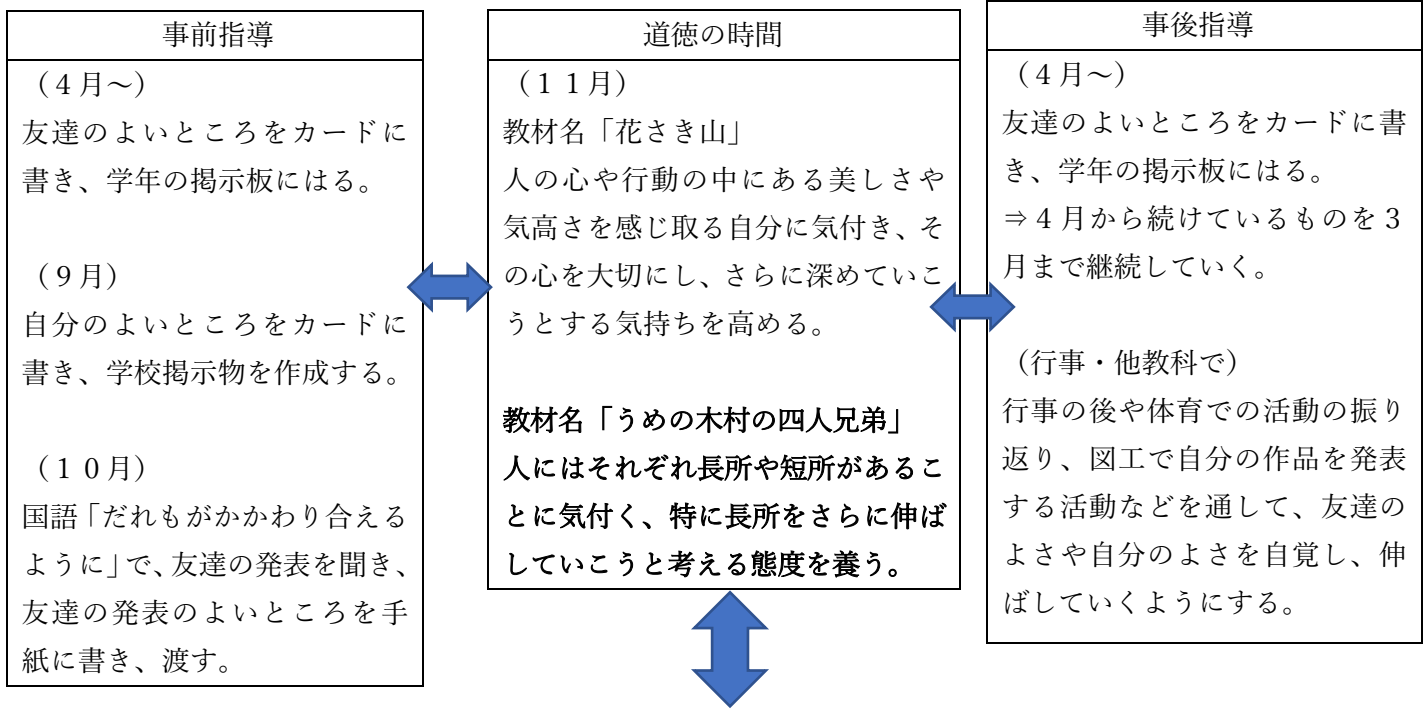
本時では、教材や文を自分事としてとらえることができるように、自我関与が中心の学習を展開する。「自分のよいところ」＝長所に気付かせることを自分だけでなく、他者の関わりの中で気付かせるようにする。そのために、事前に給食班で自分以外の人のおよいところをハート型の紙に書いてもらい、本時の中では終末で児童に読ませる。自分のよいところを客観的に知ることにより、自分のよさに気付かせたい。

## 5 学習指導過程

段落	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 何かができた時、どんな気持ちでしたかを思い出して、発表する。		・導入では、ねらいとする道徳的価値への意識付けをする。
	(1) 何かができた時あるいは頑張れた時、どんな気持ちになりますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい気持ち。</li> <li>・よかったなあ。</li> <li>・次もまたがんばろう。</li> <li>・やったー。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できたことがあった時や頑張れた時の気持ちを考えさせ、それらの体験が自分のよいところにつながっていく可能性に気付かせる。</li> </ul>
	2 ねらいを提示する。	1人1人が、自分のよいところについて考えよう。	

<p>3 教材「うめのき村の四人兄弟の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <p>(1) 4人は嵐が来た時、それぞれどんなことを考えながら、行動したのでしょうか。</p> <p>(2) 嵐がすぎさった後、おとうにほめられた4人はどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>(3) 今回のお話で、いいなと思ったところについて、話してくれますか。</p>	<p>&lt;いちろうた&gt; ○水があふれたら、村が水びたしになってしまう。力をいっぱい出して、土のうをどんどん積もう。</p> <p>&lt;じろうた&gt; ○家が壊されたら大変だ。風に飛ばされないようにしっかり板を打ちつけよう。</p> <p>&lt;さぶろうた&gt; ○牛やにわとりも嵐がこわいのだろう。大丈夫だよ。</p> <p>&lt;しろうた&gt; ○早く嵐が過ぎてほしい。ぼくができることをしなくちゃ。</p> <p>・大変だったけれど、おとうがよろこんでくれてよかった。 ・得意なことがあってよかった。 ・もし、また嵐が来たら村を守るぞ。</p> <p>・1人1人に得意なものがあったといいなと思いました。 ・自分の得意なことを、みんなのために役立てられるのはいいことだと思いました。</p>	<p>・教師が情感を込めて範読する。</p> <p>・4人の登場人物の特徴を確かめる。 ・(1)では、4人の特徴に着目させ、それぞれに自分の得意なことをいかそうとする思いがあることをとらえさせる。 ☆一人一人のよいところを生かしたことに気づいているか。</p> <p>・(2)では、一人一人のよさを生かして嵐を乗り越えたことが、4人も満足感や自信につながったことをとらえさせる。</p> <p>・(3)では、ねらいとなる道徳的価値への考え方や感じ方を共有し、週末の活動につなげる。</p>
<p>3 課題に対して自分なりに考える。</p> <p>(1) 友達の書いたよいところを読んで、自分のよいところを書く。</p> <p>(2) 金子みすず「私と小鳥と鈴と」を聞かせる。</p>	<p>・笑顔で明るく生活できる。 ・友達となかよくできる。 ・ノートがきれいに書ける。</p>	<p>・4人の兄弟のよいところから、今度は自分の持っているよいところに焦点を当てる。 ・(1)では、友達が書いた自分のよいところカードを読んで、自分のよさをあらためて感じさせるようにする。 ☆自分のよいところを考え、書いている。 ・自分のよいところを大切にし、これからも伸ばしていけるように余韻をもって終わりにする。</p>

## 6 他の教育活動との関連



家庭との連携
(授業参観・懇談会) ・授業参観で道徳の授業を行い、家庭でも内容について話題にしてもらう。

## 7 評価の視点


### 【物事を多角的・多面的に考えている様子】

- ・うめの木村の兄弟それぞれに長所があることに気付き、それをいかすことのよさを考えている。

### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・友達との関わりの中でもっと自分のよいところを見つけていきたいと前向きに考えている。

## 8 板書計画



- 笑顔で明るく生活できる。
- 友達となかよくできる。
- 授業で発表を頑張っている。

・一人一人が得意なものがあっていいな。

・得意なことを、役立てられるのはいいな。

しろうた	さぶろうた	じろうた	いちろうた

うめのき村の四人兄弟

一人一人が、自分のよいところについて考えよう。

自分のよいところ

できた!

- ・うれしい気持ち。
- ・よかったなあ。
- ・うれしいと思う。
- ・自分に自信が持てると思う。
- ・力を使って、土のうをどんどん積もう。
- ・風に飛ばされないように板に釘を打とう。
- ・牛やにわとりも嵐がこわいのだろう。ぼくがいるから大丈夫だよ。
- ・ぼくができることをしなくちゃ。
- ・おとうに喜んでもらえてよかった。
- ・得意なことがあってよかった。